



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
JAPAN **EAST** REGION

2024-2025

BULLETIN



【2024～2025 主題】

国際会長

A. Shanavaskhan (インド)

国際会長主題

“Together for a Better World” (より良い世界のために、共に)

スローガン

“Arise and Shine” (立ち上がろう、そして輝こう)

アジア太平洋地域会長

Joan Wong (香港)

太平洋地域会長主題

“Make a Great Impact” (大きなインパクトを起こそう)

スローガン

“Be Bold and Serve by Faith” (大胆に、信念をもって奉仕しよう)

2025. 10. 1 発行 通巻 71 号 / 2024-2025 年度 第 2 号



「ワイズの方向性を見極める！」

～ユースエンパワメントを YMCA と共に！ ～



理事主題：ワイズの方角性を見極める

スローガン：ユースエンパワメントを YMCA と共に

2024-2025 年度 東日本区理事 山田 公平（宇都宮）

1. 第 36 回ユースボランティア・リーダーズフォーラム：YVLF と呼ばれるこの行事は、2024 年 9 月に山中湖センターで約 30 人のユースと 30 数名のワイズの参加で行われました。基調講演は、伊藤眞太郎熊本 YMCA 総主事で、テーマは、不登校児童への取り組みでした。
2. Y's × SDGs ユースアクション 2024：2024 年 4 月～2025 年 1 月に行われました。東西日本区と YMCA 合同で 10 か所でのユースアクションプロジェクトがチャレンジされました。東日本区内で行われた 7 つのユースアクションは、東京 YMCA ユース活動「ミックス」、山梨 YMCA リーダー会、埼玉 YMCA 川越センターのクローバークラブ、中央大学 YMCA「ひつじ雲」、長野と松本合同の“Youth for Noto”。札幌 YMCA リーダー会有志、盛岡 YMCA ユースリーダーでした。
3. 不登校児へのプロジェクト：2024-25 年度 TOF 助成金 15,000 スイスフラン（約 250 万円）が 3 か年プロジェクトとして始められました。これまでに、宇都宮、甲府、東京などの活動支援を進めてきています。
4. 国内での CS 活動や BF による交流；東日本区にある 51 クラブが各地域における地域奉仕活動に積極的に取り組むことがワイズ運動を住民に理解してもらうために大切だと考えます。2025 年 1-3 月に毎月 1 回、CS ナイトフォーラムという形で 3 回に分けて紹介されました。また、BF 交流として、東京多摩スマイルクラブの為我井さんがネパールに 2 週間滞在。一方、インドから BF 代表受け入れました。2023-24 年度の目標として、ワイズでこんなことができたと思う 8 項目を挙げました。理事 1 年目に何ができたか、出来なかったかしっかり評価し、2 年目 2024-25 年度に活かしていきたいと考えます。
5. 組織の簡素化を見直す動き：メンバーの高齢化と同時に、既存クラブや組織をやりくりするリーダーシップへの負担も大きくなっていて、会員数の減少、リーダーシップの不足、組織の硬直化が、解決すべき大きな課題だと感じました。特別タスクチームが、組織の簡素化、財政の現実的見直しを実現するために話し合われ、次年度への方向性が前向きに修正されるようになったことは、大きな成果と言えます。
6. 区の財政困難への対応：サポートファンドという新しい寄付を仰ぐという提案が出され、多くの会員有志、あるいはクラブ単位でのサポートファンドが寄せられ、2025 年 4 月末で約 60 件から約 350 万円余りの寄付が寄せられ、今後の組織運営の希望につながりました。
7. クラブの動向：大和クリエイティブ Y サービスクラブ（湘南沖縄部）チャーターナイト（8 名）が 11 月に行われました。一方で今年度中に東京センテニアルクラブと足利クラブが、12 月末で解散となりました。
8. 第 28 回東日本区大会：6 月 7 日に宇都宮駅東口のライトキューブ宇都宮で行われました。参加人数は全体で 323 名、特別講演は落語家の立川晴の輔師匠、表彰では奈良傳賞に三島クラブの大村俊之氏、甲府 21 クラブの松村豪夫氏が表彰されました。最優秀クラブは、東京多摩スマイルクラブでした。

以上

直前理事として



24-25 年度 直前理事
佐藤 重良 (甲府 21)

私は、2022-23 年度東日本区理事を務めたあと、2023-25 年までの 2 年間、直前理事として山田公平理事を支えて参りました。また、職貢委員長として、①法人推進委

員会委員長②東日本区役員指名委員会委員長をそれぞれ 2 年間務めて参りました。

直前理事として、近年東日本区のクラブ会員の高齢化が進み、クラブ員の数の減少に歯止めがかかりません。クラブ会員の減少に伴い、クラブの運営も難しい状況が続いており、クラブの解散も進んでいます。また会員減少により東日本区の財政も非常に厳しいものになってきました。このような状況ですので直前理事として東日本区のクラブ・部の活動の状況を把握して理事に報告を密にするべきであった、と反省しています。

2 年目の書記を終えて



24-25 年度 書記
大和田 浩二 (松本)

2 年目となる書記の任務として、理事を補佐し、理事の指示に従い区の運営にあたり、区の事務全般を掌りました。各事業委員会、各委員会にも可能な限り参加させていただきました。この 2 年間の副書

記・広報伝達委員の多大なる協力に感謝するものです。評価・反省として以下のものを上げたいと思います。

①各議事録を議案の承認事項ではなく議案に先立つ確認事項にして行ったことは議案の確実な審議に有効であると評価したいと思います。

②連絡手段、臨時会議等の議案審議も、ほぼメールを用いて行うことが多く、各代議員・役員・委員にそのことを徹底して行くことがますます重要と思われます。

③書類等の提出期限を守っていただけないこと、未提出もあり、この徹底の仕方も今後の課題です。

④理事の様々な面での補助者たらんと 2 年間努力しましたが、及ばないところ多々でした。ユースアクションの選考・実施・評価にキャビネットの立場で接し、YMCA スタッフ時代に培った経験を交えて「Youth for NOTO」(ユースフォー能登)での留学生・大学生との能登半島地震復興に少ばかり寄与できたのは嬉しい出来事でした。

財政健全化を願って



24-25 年度 会計
鈴木 伊知郎 (宇都宮東)

(1) 近年の東日本区一般会計の現状

2 度目の東日本区会計を務めた総括として、財政状態の悪化の要因に下記を上げる。

①会員数減少による区費収入の減少

②国際会費等が為替レートの悪化により増額となった

③各期に於ける繰越剰余金が連続して減少

(2) 財政改革の取り組み

①経費削減を実施。特に区役員の活動費並びに交通費の大幅な削減を実施し、区役員の皆様にはご負担をお掛け致しました。このことにより、経費の削減がみられました。

また、従来型の予算案策定をやめて最悪の場合を想定した予算案とし、健全な財政状態にするように努めました。

②東日本区サポートファンドの実施

東日本区一般会計に対するファンドを 2024 年 8 月から実施し、64 名(重複やクラブ等も含む)のワイズメンよりサポートファンドに対する献金があり、予想を大幅に上回る総額 3,470,465 円となりました。東日本区のための尊い献金を感謝いたします。

(3) 2024-2025 年度の東日本区財政状態の見通し

昨年までの予算の執行状況を継続していたら、今期中又は来期中に東日本区一般会計は破綻していた恐れがありました。上記(2)の各種対策の結果、財政破綻は免れることになりました。そしてサポートファンドによる支援が予想よりも大きなものとなりました。

仮にサポートファンドの献金がなかったとしても、今期の一般会計の決算は収支差額なしとの見通しになりました。

ここ 4 年間あまり、東日本区一般会計は急降下を続け、地面に激突する恐れがありましたが、何とか経費節減で水平飛行に戻り、さらにサポートファンドの大きな支援により、上昇飛行となりました。深く感謝を申し上げます。

CS 活動を通じて元気なワイズに



24-25 年度

地域奉仕・YMCAサービス事業主任

廣田 光司（千葉）

I. 年初の目標

- 1) 地域奉仕活動の良い事例を各クラブに紹介・表彰する

ことで各クラブのクラブライフの充実の手助けを
すると共に一般社会に対して広報をする。

- 2) プロボノリストの活用と更新を継続する。

- 3) 環境問題への関心を高め、メンバーに地球に優しい生活を奨励していく。

II. 成果概要

1) 活動

・各クラブに W4W の実施を呼びかけ、16 クラブで実施された。

・地域奉仕活動の良い事例を各クラブに紹介するために CS 活動リストの中から選択をしてワイズナイトフォーラムⅡを開催し、9 クラブの活動を紹介した。

赤松後継樹育成 苗木植樹活動（那須）

出勤！クリーンレンジャー（東京ひがしなど）

神田川船の会（東京グリーンクラブ）

Y 友広場（東新部）

プランター野菜講座（東京多摩スマイル）

Youth for NOTO（松本）

障がい者フライングディスク大会（富士五湖）

年賀ハガキコンテスト（熱海）

音楽を通して社会にアピールを（大和クリエイティブ Y サービス）

2) 事業委員会の定期的開催

6 回開催（2 ヶ月に 1 回）19 時～20 時 30 分
リモート開催

III. 今後への課題

- 1 W4W の実施クラブを更に増加する。
- 2 ワイズナイトフォーラムの継続開催。
- 3 CS 活動リストの更新をする。

以上

東日本区会員増強事業



24-25 年度

EMC 事業主任

進藤 重光（東京）

皆さまのご支援ご協力により、昨年度同様の会員数を維持したことをご報告し、心より感謝申し上げます。諸物価

高騰の世相の中で、多くの NGO・NPO 団体が厳しい運営を強いられていますが、本事業は既に活動報告を行っておりますので、本邦の労働に関する総合的な調査研究を実施している厚生労働省所管の独立行政法人 労働政策研究・研修機構の「市民の社会貢献に関する実態調査」（2022 年度）の報告内容からボランティア活動の実態をご紹介します。

2021 年の 1 年間にボランティア活動をしたことがある人の割合は約 17% となっていますが、その割合は会社員に限ってみると約 14% に低下。ただ、年代が上がるほど経験した人の割合が高くなり、「20～29 歳」が 14.9%、「30～39 歳」が 14.1%、「40～49 歳」が 15.9%、「50～59 歳」が 15.4%、「60～69 歳」が 20.3%、「70 歳以上」が 21.1% です。

ボランティア活動に参加した理由（複数回答）は、「社会の役に立ちたいと思ったから」が 59.1% で特に割合が高く、次いで「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」（34.3%）、「自分や家族が関係している活動への支援」（25.4%）、「その他」（12.3%）、「職場の取り組みの一環として」および「知人や同僚等からの勧め」（ともに 11.4%）などの順です。ボランティア活動への参加の妨げとなることがあるか尋ねた結果（複数回答）を見ると男女とも最も多いのが「参加する時間がない」で、次いで「ボランティア活動に関する十分な情報がない」などとなっています。

これらの調査結果を踏まえますと、ワイズダムへの参加を呼びかける対象が高齢であることは決して妨げにならず、寧ろ可能性が高まることが分かります。その活動の意義が高いことを伝えることができれば、個々のモチベーションは高まる可能性があるというを示しています。しかし、その一方で、十分な情報が届いていないということが窺え、これが私たちの今後の課題とも言えるのではないのでしょうか。

楽しもう！ワイズの広がり、繋がり



24-25 年度

国際・交流事業主任

山本 剛史郎（川越）

活動報告：

・ワークキャンプ：次年度（2025～2026 年度）実施したいと思います。

・BF 代表派遣

BF 代表者：為我井輝忠氏（東京多摩スマイル）

訪問日程：

2024 年 11 月 20 日～12 月 10 日（22 日間）

訪問先：

ネパール（カトマンズ、ルンビニ、ポカラの 3 都市）

報告会：2025 年 1 月 23 日（木）20:00～

Zoom による報告会、他

報告書：下記のリンクの通り。

<https://drive.google.com/drive/folders/1kLAJT3zDP1REMSYwPoR6jgJdXIjqSIqe?usp=sharing>

課題：今後、青少年ワークキャンプ、訪問交流事業について検討している

・BF 代表受け入れ

BF 代表者：クリシュナン・ベンカテッシュ氏
（南西インド地域コラム・ロイヤルクラブ）

日程：2025 年 1 月 26 日～2 月 9 日（15 日間）

同行者：ハリハラン・ジャヤンティ氏

訪問先：関東東部、東新部、富士山部

報告書：下記のリンクの通り。

<https://drive.google.com/drive/folders/1oeWLCGHBN0KvflpFHC8HgwOejmJTmkW0?usp=sharing>

・TOF プロジェクト

プロジェクト ID：TOF 24-03

プロジェクト名：

長期間学校に通えない児童・生徒への対応

概要：長期にわたって不登校になった生徒を対象に、構造と教育への復帰を提供するさまざまなセミナーやキャンプを運営するために TOF 資金を要請します。

・今後の課題：「若者に異なる世界を見せたい」
ワークキャンプ、訪問交流事業の実施。

TOF プロジェクトの推進

RBM（ロール・バック・マラリア）事業の継続

BF 事業の推進・継続

ユース事業の総括



24-25 年度

ユース事業主任

三田 庸平（もりおか）

【活動について】

① YVLF（9/6～9/8）東京 YMCA 山中湖センター 実行委員長 城田教寛。今年度は不

登校の問題についての講演（講師：熊本 YMCA 伊藤眞太郎氏）を聞いてグループワークを行いました。不登校の話聞いて各グループの特色が見られた時間を過ごしていました。開催中に実行委員長の故城田教寛さんが亡くなってしまいましたが、城田氏の意思を受け継ぎ最後までやり遂げられたと思います。

②ドバイで行われた IYC には東日本区から 2 名の派遣を行いました。プログラムが出てないなど戸惑いがありましたが、期待ある若者が参加しました。帰国後には多くのワイズの方々、YMCA の関係者の皆さんをお招きして Zoom で報告会を開催。熊本で行われる AYC に向けて繋げられる期待をもてました。

※実行委員会に入っていました、下山さんは実行委員会の出席や提出物の遅延等が目立ち、残念ながら続けられることが出来なくなり、実行委員会を抜けております。

③ユースアクション

昨年度選ばれたユースチームの状況を拾いながら活動を支援してきました。

報告会には日本全国の YMCA 関係者・ワイズ関係者の皆さんに参加して頂きました。

④月 1 回のユース委員会

毎月 1 回開催し、こまめに情報共有をして参りました。

⑤熊本で行われた AYC の派遣に向けて選考をおこないました。東日本区からは、多くの参加者及び実行委員を派遣することが出来ました。

⑥東日本区大会でのユースの集いではとちぎ YMCA・もりおか YMCA の活動のお話しやユースアクションの報告を頂きました。ユースの力の凄さ、堂々とした発表。すべてが自信にあふれユースの凄さを実感することが出来ました。感謝いたします。

1 年間ユースの成長をたくさん間近で見られて、活動を盛り上げられたと思います。多くの皆さんにお力を頂きまして、感謝いたします。ありがとうございました。

2024-25年度を振り返って



24-25年度 北海道部部长
柴田 伸俊 (札幌)

2024-25年度～2025-26年度の二期に渡る部長職を宣言したものの、予想通りと言うか、予想以上のアツという間の1年でした。一年を振り返ると

想定できない東日本区の動きと、自分がやってみたい事の具体的手段を模索しているうちに終わってしまったという思いです。就任当初はワイズの「高齢化」と「会員減」は絶対口にしないとの思いで始めましたが、最後にこの部報で口に出してしまいました。当初から事業主查の働きを何とかしなくてはとの思いが大きく、結局は何をして良いか分からず途中でギブアップしました。

開き直って、自分がワイズにいて何が楽しいか・・・、何をしてもらいたいのか・・・を考えた末、意外と北海道は素敵な財産の宝庫だなと感じてきました。北海道はなんたって美味しい食べ物と大自然、そして数多い温泉。それに加えてスキーモーグルのオリンピック会員(札幌クラブ)、プロのピアノ演奏者(札幌クラブ)、キャンプリダーOB(北見・札幌クラブ)、牛乳やジャガイモの生産者(十勝クラブ)こんな財産を各クラブ自らが持っている北海道部は素晴らしい。ワイズライフが楽しくない方がおかしい。

9月は十勝ワイズの広大な畑で札幌から弁当持ちでの「芋掘り」。収穫の芋は自家用とバザーで販売。1月は札幌のオリンピック会員に引っ張られて旭川でバックカントリーなみの体験、小学2年生のコメットにワイズは誰もついていけません。同時にスキーの出来ない会員はゆっくり温泉まわりで夕方ホテルに合流し、会員や家族を交えての食事会。5月は十勝での山菜例会を餅つきしながら牡蠣とホタテにジンギスカン。とどめは6月のワイズキャンプワーク。携帯の届かないYMCAチミケップキャンプ場で施設維持の為にワーク。夜はシカの鳴き声を聞きながら満点の星空でワイズを語る。こんな北海道に行ってみたくありませんか？ウェルカム北海道！

新しいミッションの始動



23-24年度 北東部部長
大久保 知宏 (宇都宮)

部長主題を「戦略2032を意識して」、副題を「ユースと共にクラブのミッションを育てよう」とし、それぞれのクラブ運営について「戦略2032」意識することに注力することを活動方針としましたが、部内での理解を深め、活動に繋げることは道半ばとなりました。

評議会は11月23日に開催しました。チーム・イノベーションの答申、戦略2032を共有し、議論しました。予算案、足利クラブ解散など4つの議案を審議しました。もりおかクラブの三田庸平氏を次期部長に選任しました。また、予算案において、YVLF負担金1クラブ辺り2万円については、一人当たり800円とし、不足分については部一般会計予算から支出することが決定しました。

評議会は11月23日に開催しました。チーム・イノベーションの答申、戦略2032を共有し、議論しました。予算案、足利クラブ解散など4つの議案を審議しました。もりおかクラブの三田庸平氏を次期部長に選任しました。また、予算案において、YVLF負担金1クラブ辺り2万円については、一人当たり800円とし、不足分については部一般会計予算から支出することが決定しました。

北東部大会は、2024年9月28日(土)、福島市市民活動サポートセンターを会場として。参加者19名と少人数での開催となりましたが、大島博幸牧師による「福島の地でのYMCA活動への思い」、山田公平理事による「不登校児への取り組み」という二つの講話をいただきました。この二つの取り組みは、北東部大会後、北東部のメンバーが関わる形で始動しています。

ふくしまYMCAの設立というミッションでは。福島市での検討会議を4回開催し、年度末において「設立準備委員会」の設立と「設立趣旨書」の作成などのアクションプランが決定されました。次年度では、北東部としても設立準備費用の予算化がされたことに加え、北東部フォーラムをふくしまYMCA設立の準備の一環として開催します。

不登校児への取り組みでは、おもに宇都宮において地域で不登校児支援を行っているNPO法人と協働して、不登校児のための「学校の外の文化祭」6月22日に開催しました。このプログラムは、不登校の子どもたちに、スポーツ、音楽、芸術、IT、料理、美容などの多分野に専門家の指導のもと、子どもたちが触れ、興味を持ち、子どもたちにとって安心できる環境が作られることを目的としています。

我々は微力かもしれないが、無力ではない！



24-25年度 関東東部部長
山本 剛史郎（川越）

部の目標達成状況
可もなく、不可もなく。現状維持。
部会・評議会概要（年月日、

場所、出席者数）

関東東部大会：2024年10月19日（土）ウェスタ川越、参加人数：55名

Creative Arts Tokyo のみなさんによるミュージカル鑑賞を行いました。

評議会：2024年7月20日（土）、ウェスタ川越。部長選出方法の変更がなされた。

評議会：2025年5月17日（土）、東京YMCA東陽町センター

部の主要活動（部報、部長通信等）

部報第一号、2024年9月1日発行

BF 代表者（K.ベンカテッシュ氏御夫妻）の受け入れ、2025年1月26日（日）～2月9日（日）

関東東部レクリエーション「江戸城ウォーク」、2025年4月5日（土）

クラブの状況概要

メンバーの固定化が目立つ。適度に新陳代謝が行われると良いのだが、それでも関東東部は比較的頑張っていると思う。

その他 評価反省、問題点等

部大会に力をいれるのではなく、部主催によるEMC対策、集まりが必要だと感じた。そのためには4月に行ったレクリエーション企画をもっと開催したい。

ALL東新部は試練を越えられたか？



24-25年度 東新部長
今井 武彦（東京むかで）

期初からセンチニアルクラブの解散申出、9月のリーダーズフォーラムでの城田部事業主査の急逝と厳しい

事態がつづきましたが、ALL東新部で何とか切り抜けることができました。

即ち、前期以前から続いているZoomによる毎月第2水曜日夜のクラブ会長会（部役員参加）、第2木曜日夜のY友広場（だれでも参加可）を開催し、部とクラブ間の情報共有と交流を深めることが出来た。

しかし、東新部の期初会員数60名は、期末会員数は55名余と減少し、まさしく、高齢化と役員担い手不足に直面しました。

このような状況を踏まえ、部大会開催に当たりましては、従来のクラブ輪番制の部大会幹事制を廃し、部大会実行委員会を組成し、10月5日（土）にYMCA東陽町センターで「終活セミナー（エンディングノート作成教室）」をテーマに部大会を開催することができました。参加者60名。

11月の第2回部評議会において、少人数体制にあった東新部規定・内規改定・廃止し、新たな内規を制定した。この間、Y友広場の有志の主導により、ワイワイウォーキング、ワイワイキッチン等を開催し、他部との方との交流もできた。

12月部本体が中心となって、前々期より交流を始めたNPO法人メタノイアとの接触を深め、事業所訪問、部評議会でのメタノイア代表理事の活動報告、部としての支援金手交を実施した。3月 EMCセミナーを開催。29名の参加者を得た。特に、あずさ部、関東東部の在京クラブの参加者を得て、今後、部の枠を越えての交流を活発化することで一致した。

最後に、BF代表為我井ワイズをネパールに派遣、来日したBFインドのワイズ夫妻を部として接遇できたことは感謝です。

2024-2025年度 あずさ部報告



24-25年度 あずさ部長
ピーター・マウントフォード（甲府）

部長主題 めあてに望み
部の目標達成状況 国際協会のブースター賞は甲府 21 クラブに受賞。入・退会で部員は2名増。

部大会 10/19 シャトレゼホテル石和 東日本区のテーマ「ユース・エンパワーメントの実現」を基に、松本・長野クラブの支援の下能登半島で大学生がボランティア活動を報告と 山梨 YMCA ユースリーダー会が活動を解説パフォーマンスを披露。出席者 75 名。

評議会（出席人数）

7/27 信濃の国評議会 松本、あがたの森公民館で松本クが主催 信濃の国にまつわる合唱（51 名）

2/8 ワイワイ評議会 甲府、山梨 YMCA、甲府 21 が主催 今後の部運営のグループ討議（51 名）

5/10 富士北麓評議会 富士吉田青少年センター 赤い屋根、富士五湖クが主催（46 名）

公式訪問

あずさ部 11 クラブへ全て公式訪問実施。加えに富士山例会（9/28、富士五湖主催）、東京八王子クラブの 30 周年記念例会（10/26）、山梨 YMCA バザー（11/4）、アジア賞授賞式（12/14、松本）、山梨 4 クラブ合同新年例会（1/11、甲府やまなみ）、東京八王子クラブのチャリティーコンサート（3/15）、14 回障害者フライングディスク大会（4/19、富士五湖）と山梨 YMCA チャリティーランに参加し、甲府 21（7/2）、東京日（7/18）、東京サンライズ（2/13）、八王子（4/26）と甲府やまなみ（5/24）の入会式も出席。

その他

東日本区代議員会（対面・Zoom）を欠席なしに参加し、部長主任研修会（12/4、Zoom）と次期会長・部役員研修会（3/8～9、東山荘）も出席。

クラブの状況・課題

少数人数クラブの生育、会員の高齢化と会員増強の課題は続いている。部員高齢化に対して、あずさ部の役職と行事等の負担を軽減に向かっている。しかし、会員になる関心低下は他組織にも影響を与えているので、会員増の課題解決の難しさを示唆している。

共に支え合い・共に喜びを



24-25年度 湘南・沖縄部部長
久保 勝昭（横浜つるみ）

2024年7月27日第1回評議会：とつかYMCA（議案事項が5項目あったがスムーズに通過。）
8月2日第31回AID文化フォーラム、（8/2、3、4の内2、4日出席）かながわ県民センター

（20年前にも参加したが、今回は以前より活発な活動がなされていることに驚いた。）

9月3日：103回YMCAとワイズの協議会（12/3、3/4、6/3・年4回実施）横浜中央YMCA

10月26日湘南・沖縄部、部大会（次次期部長選考会）：○佐藤節子氏（厚木クラブ）に決定。

11月30日：第2回部評議会：とつかYMCA

○湘南・沖縄部より、かながわ部に改名を決定。

12月7日厚木ワイズメンズクラブ20周年記念例会

2025年4月26日：湘南・沖縄部ワイワイ交流会 三浦YMCA グローバルエコ・ヴィジジ

（各クラブの担当主事を含め31名参加、卓球大会やバーベキューで楽しい交流の場となった。）

※大和クリエイティブYサービスクラブ、チャーターナイトまでの経緯。（準備会4回、9月14日：設立総会（大和商工会議所）11月24日チャーターナイト（北京飯店）、（大和市長、座間市長、佐竹総主事、山田理事、ワイズメンと多数の方が来られ盛大に行われた。））

たゆたえども沈まず



24-25年度 富士山部部長
相磯 優子（沼津）

富士山部大会
日 時：2024年10月12日
会 場：時之栖（御殿場）
参加者：80名

卓話者：日本YMCA同盟 主任主事 有田征彦様
評議会：

- 第1回（7月20日、於プラザヴェルデ）
- 第2回（1月25日、於プラザヴェルデ）
- 第3回（5月10日、於静岡YMCA）

活動

2024年10月19日あずさ部部大会出席、10月20日熱海グロリークラブ40周年記念例会出席、10月26日東京八王子クラブ30周年記念例会出席、11月9日第2回東日本区役員会出席、11月23日熱海クラブ第17回ドッチボール大会出席、静岡YMCA第38回中学生英語スピーチコンテスト出席、2025年1月13日伊東・下田合同例会出席、1月21日沼津・三島・御殿場合同例会出席、1月22日熱海・熱海グロリー合同例会出席、1月28日富士・富士宮合同例会出席、2月6日BF代表富士山部歓迎会開催（会場：日本YMCA東山荘・参加者：40名）、3月8・9日次期会長・部役員研修会出席、3月16日Y's×SDGs Youth Action 2024報告会（Zoom）参加

その他

部の人事、部報発行などスリム化で運営を行ったことの弊害は無かったように思うが、EMCの活性化については着手できなかったことを猛省しております。

元気を取り戻そう、ワイズマン！



24-25 年度方針 行政監事
清水 弘一（石巻広域）

1997 年 7 月 1 日に日本区が東西日本区に分割されて 27 年、2024－2025 年度を振り返るとワイズメンズクラブ運動 100 年

の歴史にあって、ワイズを取り巻く世界の潮流の変化はすさまじく、私たちの運動はこれでよいのか、その為の組織はこのままでよいのか、何をどう変えるべきかなど役員会や研修会等でお互いに意見をぶつけあった年度でした。

東日本区がスタートして以来、区理事始め理事スタッフのほとんどが前年度に続き 2 年目の就任となりました。現在の組織において一年間の任期では目標とする事業達成は困難であるとの判断でした。区財政の危機的状況を背負いながらの運営で、ある意味では組織のために個人的な負担が強いられたかも知れません。会員の高齢化問題や歯止めがかからない会員減少に直面している中で、しかし、ワイズ魂はまだ健在です。チームイノベーションからは、短中期に分けて区の財政改革問題など様々な課題について理事への答申がありました。役員会や事業委員会、研修会などで議論してまいりましたが、一部を除き合意達成までは時間が足りませんでした。次期山下理事体制に引き継がれましたが、執行部に一任するのではなく、会員一人一人が自分事として何ができるかを発言する時をもちたい。

志を共にするワイズ仲間がいなくなるほど寂しいことはない。新しい仲間に出会うほど嬉しいことはない。組織は新陳代謝が必然である。しかし、今のワイズマンは昔と比べてとは言わないが、元気がない。新型コロナの影響や高齢化問題もあるが、私たちにはもっともっと元気があるはずだ。いざ、「戦略 2032」に向かって、元気を取り戻そう！

財政監事 3 年目を終えて



24-25 年度 財政監事

小倉 恵一（甲府）

2022-23 佐藤重良理事年度から財政監事を仰せつかっている小倉です。

2024-25 山田公平理事年度（2 期目）は、2024 年 3 月の「東日本区チーム・イノベーション（田中博之委員長）」からの中間報告【緊急提言】を受けて、タスクフォース（特別チーム）を設けて具体的に区の財政再建と組織検討に取組まれた年度でした。

懸案の区の財政危機も、役員を始め皆様の身を削るご努力によって 2024-25 年度決算ではサポートファンド収入を除いて単年度収支均衡になりました。しかし、これは本来必要と思われる支出も削りに削った結果であり、決して改善されたという状況ではありません。区財政の視点からも会員を増やすこと（収入増）が肝要だと思います。

次年度も「財政において公正な処理・処置が行われているかを確認する。」という財政監事のミッションを務めさせていただきます。皆様の更なるご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

変化を求められた委員会活動



文献・組織検討委員会委員長
大久保 知宏（宇都宮）

チーム・イノベーションの答申があり、委員会においてどのように検討課題について

取り込んでいくかを山田理事と調整いたしました。その中で部の役割について検討を進めるよう指示があり、下記のような案をベースに検討しました。

東日本区チーム・イノベーション答申

部、部長、部事業主査の役割の見直しを行い、それに合わせた組織体制、業務分担を定める。部、部長、部事業主査が果たすべき役割と、現状および課題を明確にし、部の負担を減らすために、望ましい組織体制、区との業務分担について検討します。部が真に必要なについても踏み込んだ議論が望まれます。

部の設置については、国際憲法、アジア太平洋地域憲法では特に規定はなく、東日本区定款では「2以上のクラブが、活動をさらに効果的、効率的に行うために、部を設けることができる」（第4条第1項）と定められています。

山下次期理事より第3回東日本区役員会で示された定款、定款施行細則、諸規定の変更案について当委員会に諮問されたことを受けて、年度末において委員会を開催し、手続きを経て承認可決されました。

2024-2025 年度を振り返って



24・25 年度 LT 委員会委員長
山口 直樹（東京武蔵野多摩）

今年度方針：
理事キャビネットの方針に基づき、現状の問題点を広く認識し、今後に向けての具体的な認識を

東日本区の主任・部長・会長・その他部キャビネットの多くのメンバーと共有し、今後の方向のヒントをつかむことを考えて、2回の研修会を実施する。

活動報告：

・部長・主任研修会

日時：12月7日（土）午後2時 33名参加 Zoomにて開催

参加対象者；現次期部長と現次期主任

内容：現部長が認識している部の問題点をたたき台に、名の参加者で部の在り方からワイズの在り方までの問題のあぶり出しと、方向へのヒントを出せたと思う。

・次期会長・部役員研修会

日時：3月8日・9日 72名参加 リアル開催

会場：御殿場東山荘

参加対象者；次期会長・部役員、現部長・主任

内容：東日本区全体を対象としたリアルに直接話し合う貴重な機会として位置づけた。また、ディスカッションの時間を多くする中でかなり深く掘り下げられたと認識している。

・今後の展望

二つの研修会の位置づけも従来と変わってきている。それぞれの役割に関しての教え込む研修ではなく、現在のワイズの現状の認識を共有し、地域の違いや特性も考慮しながら今後のワイズ活動の在り方を創造していく機会となってきたと感じる。次年度へ向けて検討していくことが求められると思う。

また、LT委員会に求められるものも再検討すべき時とも感じている。

LT委員会開催

昨年6月より今年の3月まで、8回の委員会を開催した。

原則、山田公平現理事と山下真次期理事も参加していただき、キャビネットと綿密な連携をとるよう心掛けた。

東日本区ワイズ基金運営委員会報告



24・25 年度 東日本区ワイズ基金委員長
渡辺 喜代美（十勝）

今年度も、厳しい環境の中で、多くのワイズメンの皆様からワイズ基金への献金をしていただき感謝です。

今期の献金は、408,800 円となりました。JEF 補助金としての拠出はありませんでした。

<2024.7.1-2025.6.30 収入・支出の内容>

	科目	金額（円）
献金収入	期首金額 2024.7.1	14,574,551
	今期献金額 21 先	408,800
	今期利息	4,317
	JEF 計	14,987,668

支出	今期支出	0
	計	0

合計		14,987,668
----	--	------------

課題：以前に比べ役員はじめ会員の皆さんの「東日本区ワイズ基金」に対する思いが薄くなってきているように思います。JEF の重要性を盛り上げる対策が必要と思います。

ワイズメネットの交わりを深め、 ワイズメンとの相互理解を深めよう



24-25 年度ワイズメネット委員会委員長
澁谷 実季（所沢）

事業報告
ワイズメネット献金により実施
いたしました。合計 89,300 円（前
年度 158,000 円）

・献金のあったクラブ：石巻広域、東京江東、千葉ウェスト、東京多摩スマイル、甲府、東京サンライズ、甲府 21、東京八王子、熱海、沼津

国内事業

- ・YMCA の子ども関連の施設への絵本贈呈事業
72,500 円（前年度 92,000 円）
- ・東日本大震災支援 7,000 円（〃 19,000 円）

国際事業

- ・国際 TOF プロジェクトへの献金
7,000 円（前年度 38,000 円）
- ・国際会費の納入 2,800 円（〃 9,000 円）

東日本区大会ワイズメネットアワーの開催
（於：宇都宮、ランチ会）

評価と展望

前年度から事業主題を継続し「ワイズメネットの交わりを深め、ワイズメンとの相互理解を深めよう」といたしました。しかし、委員会としての活動が十分に出来ず、ご心配をおかけしてしまったことを心よりお詫び申し上げます。

今年度、ワイズメネット委員会の活動が無く、献金依頼が十分ではなかったため、例年よりもかなり減額となっています。継続して献金くださったクラブに感謝申し上げます。なお、絵本贈呈事業について、2023-2024、2024-2025 年度分を合わせて実施する予定のため、年度末ではありますが、委員会を招集いたします。

次年度の委員長は、ワイズに経験豊かな利根川恵子メンが担ってくださいます。ワイズメネットの発展に向けて進めてくださいます。

法人格のメリット活かし 地域貢献



24-25 年度 法人推進委員会委員長
佐藤 重良（甲府 21）

残念ながら、我々東日本区は、「パワーを失ってしまった」というように見受けられます。お一人お一人が行っていることや気持ちが、クラブ、部そして東日本区全体に繋がっていない。成功事例の水平展開が出来ていない、と思われます。なぜパワーを失ってしまったのか？それは、資金不足、人員不足、アイディア不足などが挙げられますが、簡単に言えば、我々ボランティア団体自体も、他の人から助けてもらうことが出来る、ということをお忘れているように感じます。ワイズ外の諸団体や行政が、補助金、助成金などを用意しているのにもかかわらず、我がワイズメンズクラブは人に頼らず、お金も頼らず、というように見えます。そうではなく、我々はこのことをやりたいんだ！ということをお明確に掲げ、その理念に基づいて、協力者、資金を、ワイズ内外から募ることができるのではないのでしょうか。法人推進委員会の報告書に記しましたのでご一読ください。

転換期の目撃者



24-25 年度方針 ヒストリアン
仙洞田 安宏（甲府やまなみ）

2023-24 年度から 2 期にわたって、山田公平理事が務めるといふ、東日本区初めての経験をしました。重責を担われた常任役員の方々には感謝あるのみです。会員数、クラブ数の減少に伴い、スリム化や簡素化のために組織や規則の変更が多くあった年でした。そのため、区の役員会はこちらに相応のエネルギーを費やしました。区報が 2023-24 年度の第 2 号と 2024-25 年度の第 1 号を合併号という不規則な形で発行されました。東日本区の設定施行細則では、区報は年 2 回以上発行するがありますが、合併号は、それぞれを 1 回にカウントするという解釈だと思います。

これらのことを通じて学んだのは、組織や規則はなるべくシンプルにしておいた方がよいということです。これから先のワイズメンズクラブの姿がどうなるのか分かりませんが、時代の変化に対応できる柔軟性と普遍性を持ちたいものです。ヒストリアンとして長年ワイズダムを眺めてきましたが、今期はそのような問題提起をされた意義ある年度であったと思います。

使い方の変化が求められる



24-25 年度 IT アドバイザー
大久保知宏（宇都宮）

IT アドバイザーの主な業務は下記の通りです。

- 1) 東日本区ウェブサイトの運営
- 2) 東日本区メーリングリストの運営
- 3) Zoom 会議予約作業
- 4) 会員の IT リテラシーの向上

東日本区ウェブサイトの運営では山下真氏の協力をいただき、国際会長ニュース、理事通信、クラブブリテンの掲載を主に行っている。クラブ運営の Facebook とのリンクを表示する機能を持っているが、クラブでの Facebook 活用が限られていて、効果が表れていない。ウェブサイト管理者宛にクラブに興味のある方からのメールは2通受信し、それぞれの居住エリアの部に連携しました。

東日本区メーリングリストの運営では、区内の情報伝達のためのメーリングリストと田中博之氏の協力をいただきワイズドットコムを運営を行っています。ワイズドットコムは、ブリテンの掲載の告知などに活用されていますが、区のメーリングリストは Gmail メールサーバーによる配信エラーの発生もあり、運用の見直しも含めて検討すべき時期に来ています。

Zoom 会議の予約作業では、コンスタントに月に10 回ほどの作業が発生しています。引き続き 2 アカウントでの運用が望ましいと思われます。

会員の IT リテラシーの向上では、クラブからのリクエストもなく IT アドバイザーとしての実施実績はありません。メール受信からエクセルでの入力、メールでの報告など一連の作業方法については、半年報での報告の仕方などを題材として研修会で時間を作る必要を感じます。

広報・伝達専任委員として



24-25 年度 広報・伝達専任委員
渡辺 大輔（東京武蔵野多摩）

今年度も昨年度に引き続きハンドブック、ロースター、理事通信、区報、ワークブックの発行を 1 年間務めさせていただきました。

次年度はチームを作って進めていけたらと考えています。

トラベルコーディネーター(TC)報告



24-25 年度 TC
小林 隆（沼津）

今トラベルコーディネーター (TC) になり 2 年が経ちました。TC は、海外からの BF (Building Fellowship 友情を築く) 代表の受け入れから出国までを適切に対応することが役割です。

2025 年 1 月 26 日から 2 月 9 日の 15 日間インドからのヴァンカ テュッシュゴ夫妻を東京周辺と富士山周辺を主体に受け入れしました。歓迎会や観光等の手厚い対応に深く感激して帰国しました。部やクラブの皆さまには大変お世話になり、本当にありがとうございました。

新しいリーダーシップへのバトンタッチ



24-25 年度 東日本区ユース代表
風間 奈月（山梨 YMCA）

2025 年 7 月 30 日～8 月 3 日に、熊本で開催されたアジアユースコンボケーション 2025 (AYC)

の運営・プログラム計画を担当しました。AYC2023 の参加者ユースや熊本 YMCA スタッフ、リーダーと毎週月曜日にリーダー会として、プログラム構成や運営体制を考えて大会に臨み、大成功だったと実感しています。

また毎月第三月曜日には、両区ユース主任の方々をお招きして AYC 実行委員会を行って来ました。AYC 実行委員会では、同時期に開催される AC との情報共有も行いました。AYC 開催中には、ワイズの方々とユースたちとの交流の場となる AC への訪問・AYC の発表を最終日に行なうことが出来、大変有意義な場となりました。

AYC2025 のテーマは、「平和」でした。AYC2025 の目的、最終ゴールがこれに相応しいものとなったことを思い起こしながら、川上灯さん、山口満穂さんの新しいリーダーシップに大きく期待しています。

ユースエンパワーメントの



さらなる推進のために

24-25 年度 東日本区担当主事
田附 和久（日本 YMCA 同盟・
東京武蔵野多摩）

2024-25 年度も、東日本区各クラブの皆様には各地の YMCA の活動を支援いただき、誠にありがとうございました。特に、2 回目となった Y's×SDGs Youth Action を成功に導いていただき、10 チームのユースたちの活動に伴走くださいましたことに重ねて御礼申し上げます。

Youth Action2024 に参加した 10 チームの活動報告はオンラインによる発表会開催後もウェブサイトで紹介しておりますほか、日本 YMCA 同盟の機関誌『THE YMCA』2025 年 5 月号においても特集を組み、東西両区理事からのメッセージを含め、詳しい内容を掲載いたしました（同盟のウェブサイトを通してご覧いただけます）。新年度以降も、SDGs に掲げられた社会課題に取り組むユースたちのエンパワーを通じて社会の変革を目指す Youth Action2026 の成功に向けて、引き続き YMCA とワイズメンズクラブの協働を推進するよう、担当主事として全力を尽くしてまいります。

私個人は、2025 年 4 月から東日本区担当主事となり、着任後、まだ日が浅いのですが、山田理事から山下理事への交代の時期に、お二人とご一緒に同盟協議会で世界 YMCA のカルロス総主事をお招きするという幸運なタイミングに巡り合いました。カルロス総主事は、講演や対話を通して、強い期待を込めて、日本の YMCA はシャイにならず、もっと積極的に世界に発信をするようにとの激励の言葉を伝えてくださいました。日本におけるワイズと YMCA の協働によるユースエンパワーメントの取り組みを、国境を超え、さらに広く世界に発信し、展開していくことも、私たちに与えられた課題であることを心に留めたいと思います。

これまでのご支援に感謝し、今後のさらなるご協力を重ねてお願い申し上げます。

東日本区事務所報告

24-25 年度 東日本区事務所長
小林 隆（沼津）



コロナ禍から解放され 2 年が経ちました。世界大会、東日本区大会、役員会、会長部役員研修会もリアル開催で行われ、face to face がやっぱりワイズの

の基本かと再認識しました。

クラブの皆さんには、半年報の報告、区費や献金の請求、会員の異動報告等の事務負担をお掛けしております。2025-26 年度からは、部の負担軽減のため半年報と献金をクラブから直接に東日本区事務所と変更しました。

できるだけ事務負担の改善に向けて努力してまいりますので、不明な点やご意見がありましたら東日本区事務所まで、お気軽にご連絡願います。

（小林携帯 090-6769-2224）

東日本区役員指名委員会

24-25 年度 役員指名委員会委員長
佐藤 重良（甲府 21）



東日本区役員指名委員会を通じて感じたことを記します。

簡単に言えば、理事をはじめ、監事、書記、会計等の役員のなり

手がない、ということです。私は、ワイズの活動を具に見るために、新クラブ設立総会・チャーターナイトへの出席を始めとして、周年例会への参加、チェンマイでの国際大会への出席、東西日本区大会への出席など多くの現場を見てまいりました。

その中で出会った 40 代、50 代の方々は、夢を語り、ビジョンを熱く持っていました。東日本区役員のルールは、やりたいという若い方々の芽を摘むことないように、試みてはどうか、と思っております。たとえば、副理事という役職を設けて、その任については、クラブ会長、部長などの経歴は一切不問とする、とか。新しい風が通るように窓を開けたい、と思います。